
悪ふざけシリーズ

脳好き人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪ふざけシリーズ

【Nコード】

N0683Z

【作者名】

脳好き人間

【あらすじ】

悪ふざけで書いた短編集です。思いつきを書きます。僕は、これをコメディーだと信じていますが、もしかしたらコメディーでないものもあるかもしれません。ごめんなさい。

バクテン

俺がスーパーマーケットでバイトをして早二年。実は、最近気になっっている人がいるんだ。

いつも帰り道、バクテンをしているあの女。

今日もそいつはやって来た。楽しそうに魚売り場で魚を見ている。

そして、商品を並べている俺を見つけると、ニヤリと笑い、口を開いた。

「すみません。このイクラ、いくら？」

やはり、こう来たか。ツツコミ、ツツコミを入れたい。

「さっ……えーと、二百八十円です」

「さむいわっ！」と、ツツコミを入れたかったが、ふと、店長に言われたことを思い出す。次、客にツツコミを入れたらバイトクビ、だったな。

実は、昔、客にドロップキックツツコミで全治二週間の怪我をさせてしまったことがあるのだ。

「……………ありがとうございます」

不満そうな表情で礼を言われる。すみません、俺には、ツツコミを入れることは出来ないんです。

とにかく、仕事の続きをしないと。えーと、十五分でレジと交代だ。

レジの仕事に交代してすぐ、あの人が現れた。

カゴには小さなお菓子が一つだけ、ちょこんと鎮座していた。

そして、やはりこちらをニヤリと笑いながら見ている。まさか、俺をからかう為だけにここに来てるんじゃないよな？

「三十円がいつ!?!」

突然腕をつかまれた。そして、バーコードを読み取る機械を腕に押し付けられる。

「あなたは、いくらですか?」

こいつ、いかれてやがる!

「すみっ……………俺は商品じゃねえよっ!」

ドロップキック中。

「……………ありがとう」

初めて、満足げな顔で礼を言われる。

それにしても、危なかったぜ。もう少しで、「すみませんが、僕は商品じゃないです」ってツツコミを入れるところだった。

いやー、バイトクビにされるところだった。

あれ、店長がこちらに走ってくるぞ？

「こらっ！お客様にツツコミを入れるなど言っていたらう！貴様、何をしている！？」

「へ、ドロップキック……………、あ！」

「もういい。クビだっ！二度と顔を見せるな！」

「そ……………んな……………」

うすれゆく意識の中で、最後に店長の声が聞こえてきた。

「ちなみに、お客様として来るのは大歓迎だ」

家への帰り道、あいつがいた。俺を見ると、ニヤリと笑って、バ

クテンをする。

そうか！

俺もバクテンに加わる。

バいと、クビにされた。テンちよつじい。

ツンデレ

世の中には、ツンデレというものがある。それは恐ろしく、且つ魅力的、だそうだ。

具体的な例を挙げよう。友人が言っていた。『押すなよっ！絶対に押すなよ』、これは、ツンデレであるらしい。

また、師匠いわく、ツンデレとは、魚を食べながら、『私は魚なんて大っ嫌いなんだからっ！』と言うような人のことらしい。

そして、『押すなよ！絶対に押すなよ！』は、本当に押さなかった場合、悲しまれるそうだ。本心では、押してほしいと、強く思っているらしい。

魚の例も、本心では魚が好きである、らしい。

この二つの例を考えてみると、簡単にツンデレを求める公式を作ることが出来る。

『ツンデレとは、本心とは逆のことを言う者のことだ。』この公式を、ツンデラーの公式と言う。

ところで、当たり屋、という者がいる。実は彼等も、公式に当て嵌めると、ツンデレだということが証明されるのだ。

当たり屋は、わざと車に轢かれ、轢いた者に怒りだす。だが、轢かれたくて轢かれたのに、怒るのはおかしいじゃないか。

ここで、最初の例、押すなよ！の例を思い出してみよう。

すると、当たり屋の行動は、最初に挙げた例が、実行前か実行後の違いでしかないことが解るだろう。

よって、当たり屋はツンデレである。という解を求めることが出来た。

恐らく、これがツンデレの恐ろしいという部分なのだろう。当たり屋の被害に遭った者は、財産を失う。

続いて、ほとんどの日本人。これもまた、ツンデレなのだ。

多くの者は、お世辞、というものを言ったことがあるだろう。

お世辞とは、心にも思っていない言葉で、話し相手を褒めたたえることだ。

もし、不快に思っている相手にお世辞を言ったことがあるなら、ツンデレに定義されることになる。

これは、二番目の魚の例の応用だ。連立方程式で、両辺にマイナスをかけても良いのと同じことだ。

ちなみに、全てのツンデレは二つの例題を応用することによって求められるため、例題を覚えていたら公式を覚えずに済む。

最後に、ツンデレの魅力的な部分について考える。

いや、考える必要は無かった。お世辞の例でわかりきっていたこ

とじゃないか。

例え嘘でも、褒められると嬉しい。これは、前の授業でやったな。

『エへの法則』、だ。

……誰か、この法則を覚えて……

エアコン

僕は空気が好きだ。初めてこのことを言ったとき、周りの皆は引いていた。

皆だって、空気が好きなんじゃないのか？というか、空気を吸って生きているじゃないか。

しかも、毎年夏には、「やっぱりエアコンがあるって最高だよな」とか言ってたくせに。

エアコンって、エアーコンプレックスって、意味だろ？

みんなエアコンに感謝していた。何故かは知らないけどさ。

うーん、そうか。僕みたいに空気が好きでたまらない人達が、何かいいことをしたんだな！

そういえば、この前親が、「エアコンのスイッチ知らない？」と、僕に聞いてきた気がする。

家族に僕以外の空気好きはいない。つ、つまり、僕を動かすスイッチがあるってことだ。

いいこと、スイッチ。

もしかして、僕たちエアコンには、地球を救うための使命的なものがあるんじゃないか？

しかも最近、省エネとか何だかで、エアコンを使う頻度を下げよ
うとかテレビでやってた。

地球を救う、エネルギーを使う。

わかったぞ。空気好きは、巨大変身ロボットなんだ。スイッチを
押すと変身して、怪獣とかをやっつけてるんだ。

うわー、すげー。そういえば学校に、陰で僕のことを「空気」だ
とか言ってる人がいるけど、そいつ、僕のこと褒めてたんだな。

いやー照れるな。まあ、地球を救ってるんだから、そのくらい当
然だよな。えへへ。

もしかしたら、僕のファンとかいたりして。いやいや、いくらな
んでもそれはないよな。

おっと、もうこんな時間だ。早く帰ろう。

「うわ、寒いなっ!」

家に帰ると、想像以上に寒くて驚いた。アレは、どこだ？

「……あつたあつた。ポチツとな」

エアコンのスイッチを押す。いやー、寒いときにも暑いときにも使える。

エアコンって、便利だね!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0683z/>

悪ふざけシリーズ

2011年12月3日15時58分発行